

SIDR 滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

週報 平成 27 年(2015 年)第 37 週 (9 月 7 日~9 月 13 日)

発行年月日:平成 27 年(2015 年)9 月 17 日
 発行:滋賀県感染症情報センター
 滋賀県衛生科学センター 健康科学情報担当
 電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548
 e-mail:eh4505@pref.shiga.lg.jp

- 1) 手足口病は、滋賀県全域に警報発令中
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 2) 小児科定点から報告数が多かった感染症は感染性胃腸炎、手足口病およびヘルパンギーナ
- 3) 感染性胃腸炎は、全県で増加、大津市、草津、甲賀および彦根保健所管内で増加
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
- 4) ヘルパンギーナは全県で増加、大津市、甲賀、彦根、長浜保健所管内で増加、高島保健所管内で警報発令中
 - ・ 全県では過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 5) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全県で増加、大津市および甲賀保健所管内で増加
 - ・ 過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 6) 伝染性紅斑は、全県で減少するも、彦根および高島保健所管内で増加
 - ・ 過去 5 年の同時期と比較して「最も」高い値
 - ・ 高島保健所管内では警報発令中
- 7) RS ウイルス感染症が少しずつ報告
 - ・ 過去 5 年の同時期と比較して高い値
- 8) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、例年と比べて多い

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一〜四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 37 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 4例	肺結核(70歳代男性、80歳代男性;2例)、無症状病原体保有者(20歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2例	O157VT1VT2(30歳代男性、30歳代女性)
	四類感染症	報告なし	
	五類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例	50歳代男性
第 36 週以前の診断例(*)	五類感染症	アメーバ赤痢 1例	腸管アメーバ(30歳代女性、異性間性的接触)

(*)平成27年 第 1 週以降に診断され平成27年第 37 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 27 年第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県									保健所別(37週)		平成27年累計		平成26年累計※	
		36週	37週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国		
二類	結核	0	4	0	2	1	0	1	0	0	154	17,038	229	25,780		
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	110	1	158		
	腸管出血性大腸菌感染症	4	2	0	2	0	0	0	0	0	30	2,758	86	4,131		
四類	E型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	137	0	151		
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	183	2	432		
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	0	61		
	デング熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	200	0	340		
	レジオネラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	1,079	16	1,236		
五類	アメーバ赤痢	2	0	0	0	0	0	0	0	0	7	795	12	1,120		
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	174	0	226		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1,106	5	313		
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	358	1	459		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	127	0	178		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	0	0	1	0	0	0	11	310	6	273		
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	992	9	1,518		
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51	1	68		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	4	196		
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1,606	19	1,777		
	水痘(入院例)※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	216	1	137		
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	37		
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1,701	7	1,661		
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	86	0	35		
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	81	1	126		
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	129	0	321		
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9		
	麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	2	232		

※ :平成27年1月現在の暫定数

※※ :平成26年9月19日より全数把握対象の五類感染症に追加

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

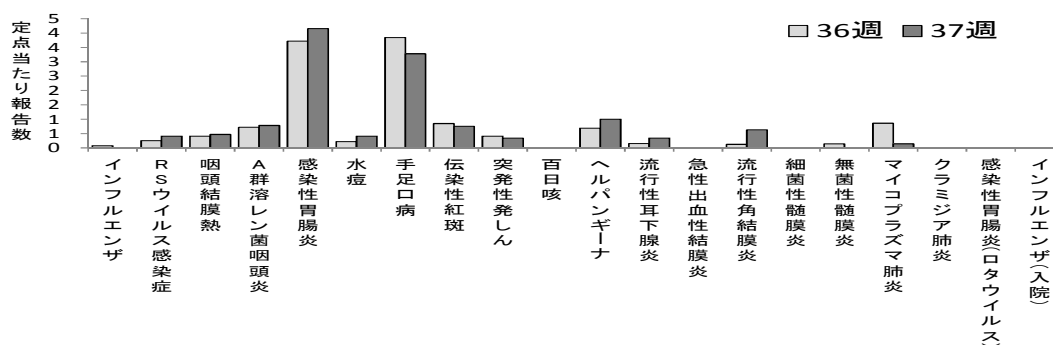
警報: 手足口病 滋賀県全域 (警報開始基準値;5、警報終息基準値;2)
 ヘルパンギーナ 高島保健所 (警報開始基準値;6、警報終息基準値;2)
 伝染性紅斑 高島保健所 (警報開始基準値;2、警報終息基準値;1)

注意報: なし

滋賀県の定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超えた場合および定点当たり報告数が「警報開始基準値」を超える全ての保健所の管内人口の合計が、県人口全体の30%を超えた場合に滋賀県全域に警報を発令します。

- 1) 手足口病は、滋賀県全域に警報が発令されています。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 1歳未満(13%)、1歳(42%)、2歳(16%)、3歳(7%)に多く、3歳以下で79%を占めます。
- 2) 小児科定点から報告数が多かった感染症は感染性胃腸炎、手足口病およびヘルパンギーナです。
- 3) 感染性胃腸炎は、全県で増加、大津市、草津、甲賀および彦根保健所管内で増加しました。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
- 4) ヘルパンギーナは全県で増加、大津市、甲賀、彦根、長浜保健所管内で増加、高島保健所管内で警報発令中です。
 - ・ 全県では過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
 - ・ 1歳(41%)、2歳(22%)、3歳(16%)に多く、3歳以下で78%を占めます。
- 5) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は全県で増加、大津市および甲賀保健所管内で増加しました。
 - ・ 過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。
- 6) 伝染性紅斑は、全県で減少するも、彦根および高島保健所管内で増加しました。
 - ・ 過去5年の同時期と比較して「最も」高い値を示しています。
 - ・ 高島保健所管内では警報発令中です。
- 7) RSウイルス感染症が少しずつ報告されています。
 - ・ 過去5年の同時期と比較して高い値を示しています。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

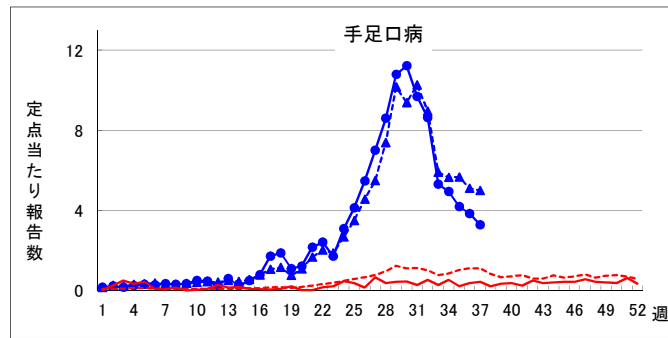
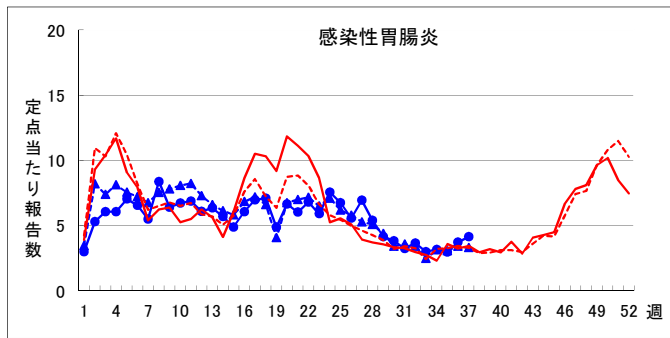
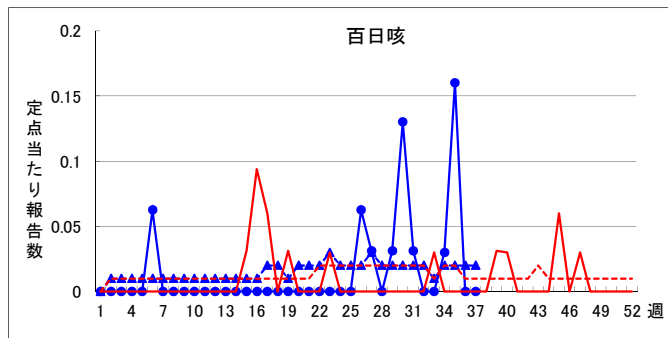
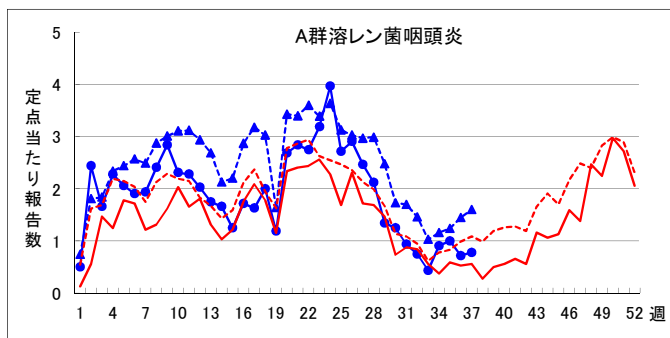
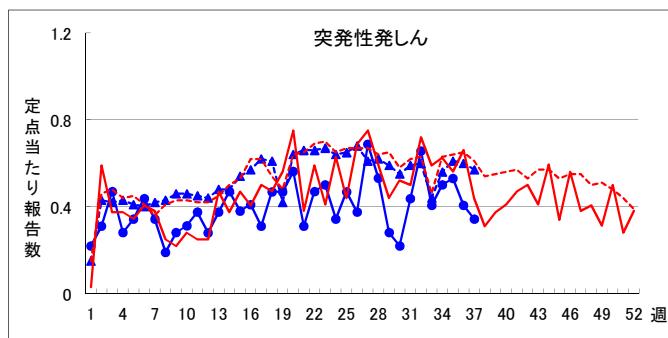
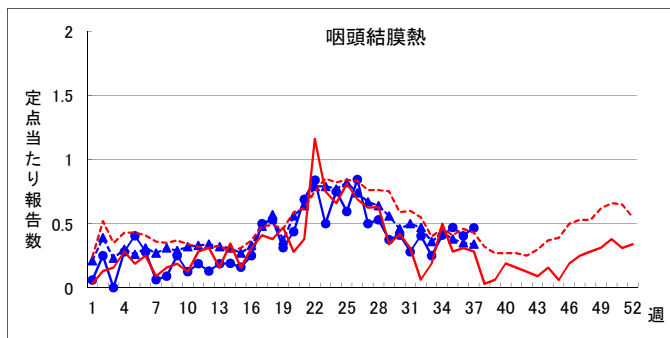
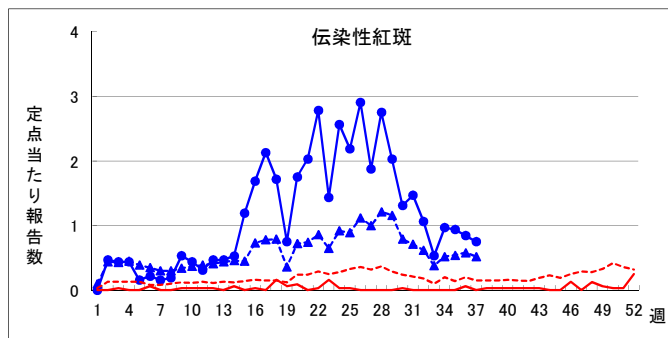
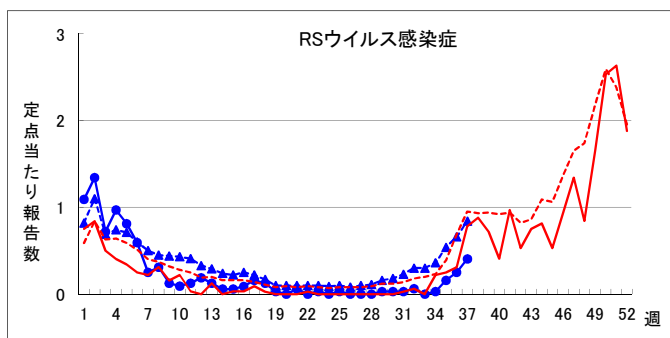
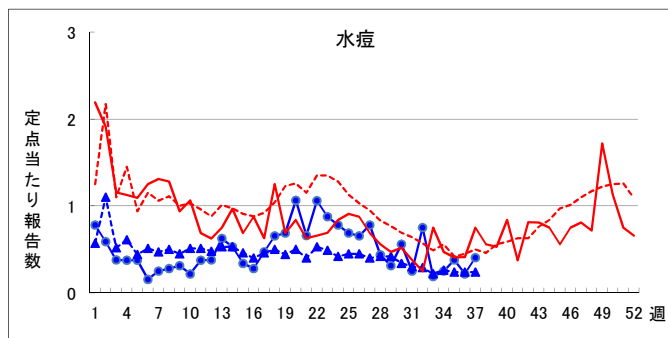
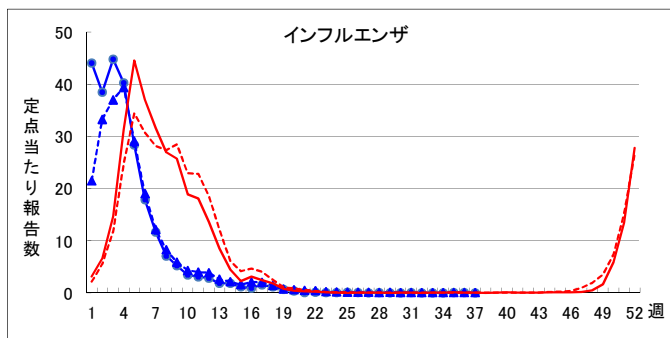
週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県										
		36週		37週		大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.08	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0.25	0.41	0.14	0	0.25	2.20	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.41	0.47	1.00	0.83	0	0.40	0.25	0	0	0	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.72	0.78	2.43	0.17	0.75	0.40	0	0.25	0.50	0	0
	感染性胃腸炎	3.72	4.16	4.14	3.50	1.25	2.80	4.25	11.00	1.50	0	0
	水痘	0.22	0.41	0.71	0.33	0.75	0.20	0.50	0	0	0	0
	手足口病	3.84	3.28	3.43	1.67	4.50	4.80	1.00	4.75	3.00	0	0
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.84	0.75	0.71	0.33	0.50	0.60	0.75	0.75	3.00	0	0
	突発性発しん	0.41	0.34	0.71	0.17	0.25	0.20	0.25	0.25	0.50	0	0
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	0.69	1.00	1.00	0.33	0.25	0.20	0.25	2.50	5.00	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.16	0.34	0.57	0.67	0	0	0	0.75	0	0	0	
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.13	0.63	0	0	4.00	1.00	0	0	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.86	0.14	0	0	1.00	0	0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
 紫字: 注意報レベルの基準値を超過

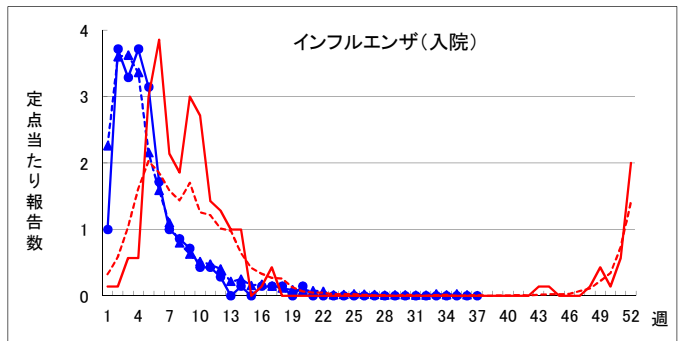
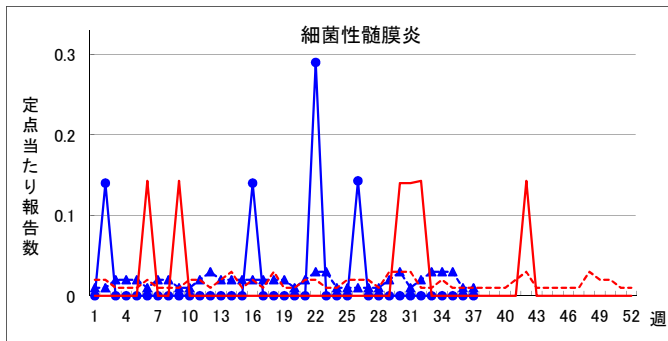
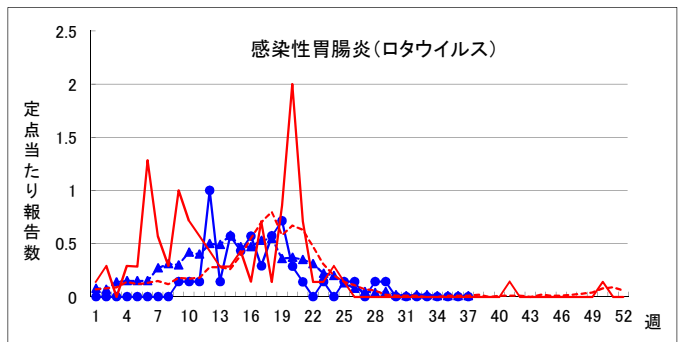
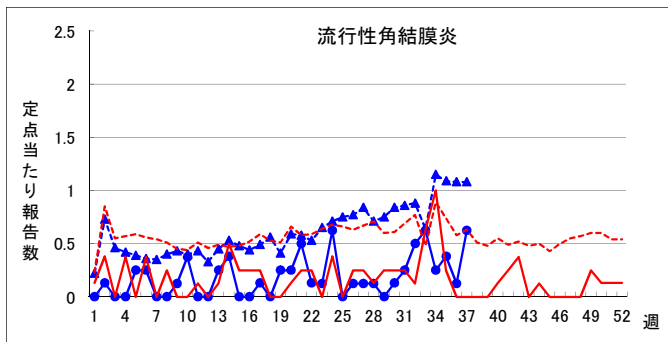
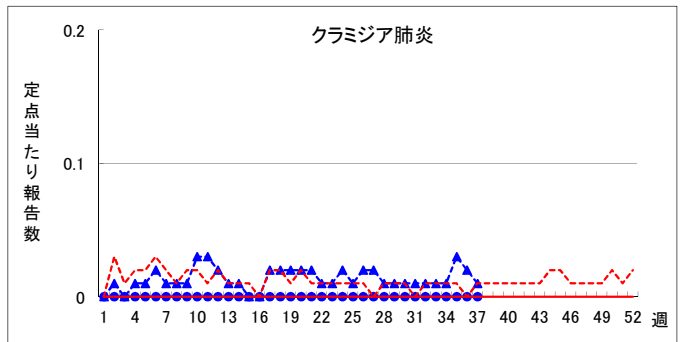
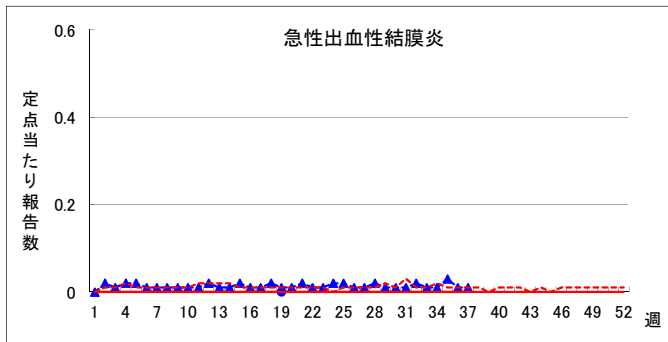
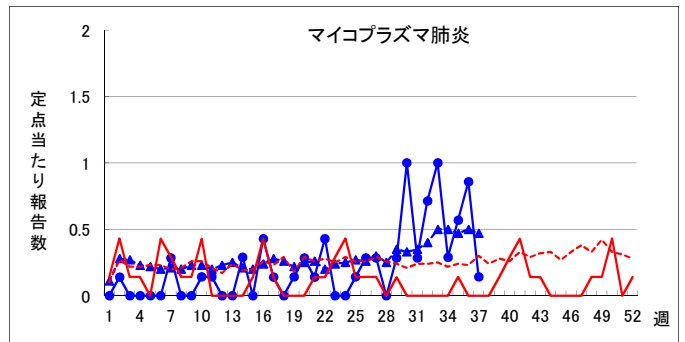
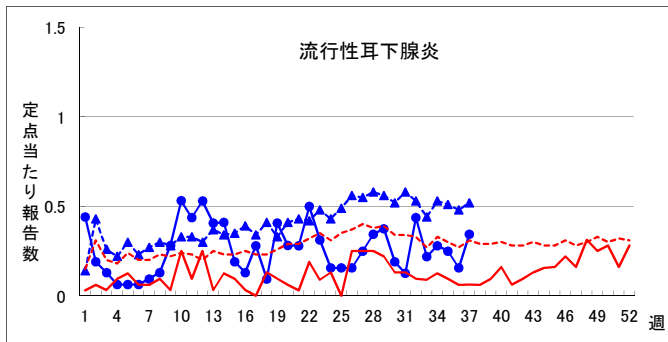
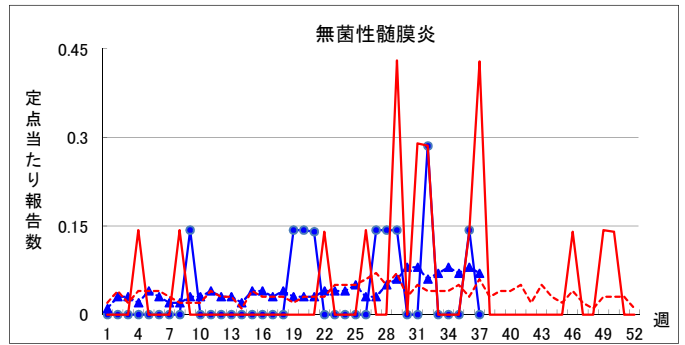
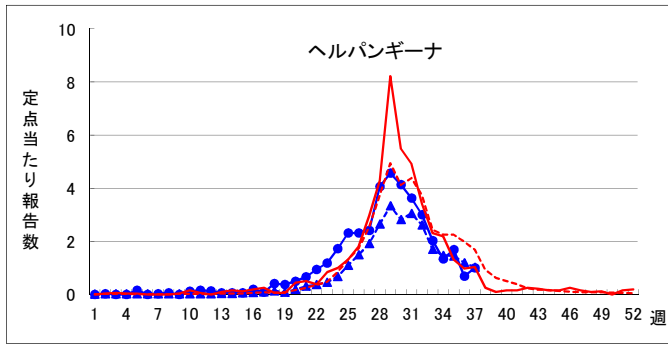
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第37週

--- 平成26年 全国 — 平成26年 滋賀県
-▲- 平成27年 全国 -●- 平成27年 滋賀県



5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成27年第37週

- - - 平成26年 全国 — 平成26年 滋賀県
 -▲- 平成27年 全国 —●- 平成27年 滋賀県



劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生動向 平成27年第1-37週

1. メディアなどで「人食いバクテリア」として報道されることがある劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、突発的に発症し、急速にショック症状および多臓器不全などを伴う**致死率の高い感染症**
2. 滋賀県では、平成18年以降に37例が報告されていますが、平成27年は例年以上に多く、1-37週に11例が報告（平成27年第1-37週までの人口あたり症例数は、全国；2.4例/100万人、**滋賀県；7.7例/100万人**）
3. 平成18年以降に滋賀県で報告された症例の年齢中央値は**70歳**（年齢範囲；1－98歳）、男性17例および女性20例、少なくとも**41%（15例）が死亡**（集計可能な9例の発症から死亡までの期間の中央値は1日）

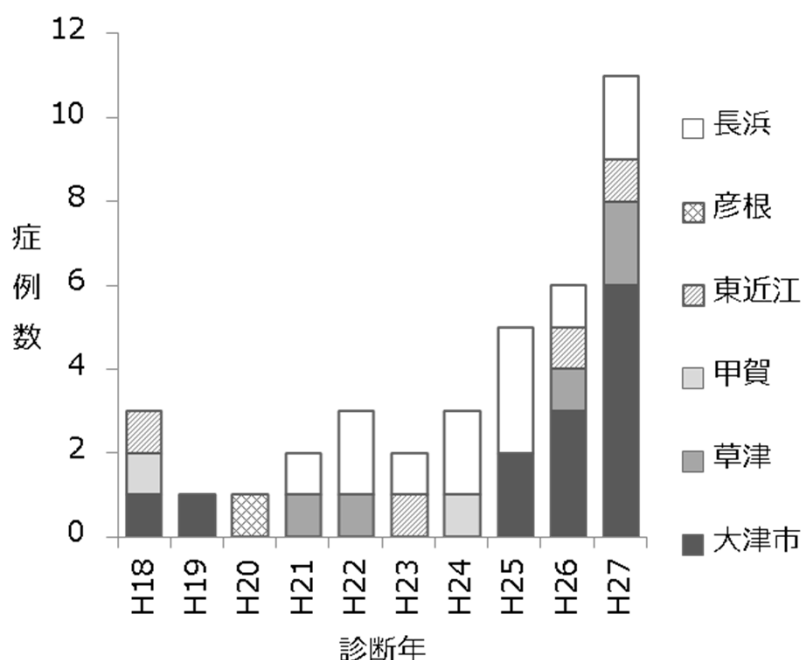


図1. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生動向
(滋賀県、平成18年第13週－平成27年第37週)

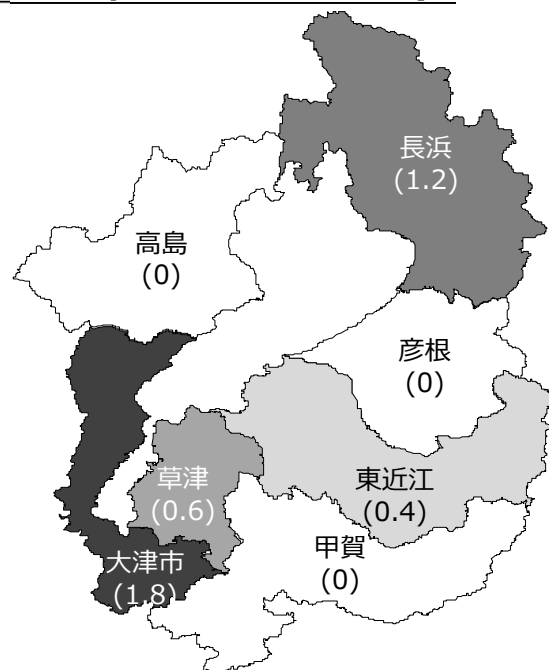


図2. 劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況
(滋賀県、平成27年第1-37週、人口10万人あたり症例数)

特徴

1. 多くの場合、小児を中心とした咽頭炎を引き起こすA群溶血性レンサ球菌が原因
2. 創傷部などから本菌が体内に侵入した場合に発症
3. 30歳以上、特に高齢者に多い
4. 初期症状は、発熱、悪寒、筋肉痛、下痢のようなインフルエンザ様の症状の後に、四肢の疼痛、腫脹、血圧低下など
5. 発病から病状が急速に進行
6. 重症化を予防するためには、早期治療が重要（致死率；約30%）